

第50回 シルバー健康大学

大阪府医師会は11月27日、府民向けの健康啓発イベントとして「シルバー健康大学」を開催しました。本イベントは昭和60年開講し、50回目を迎えました。今回は「認知症」をテーマとした講演を行い、約120人の府民の皆様にご参加いただきました。

最初に広報担当の大平真司理事よりあいさつ。2025年に約700万人、65歳以上の高齢者の約5人に1人が認知症になると推計されており、シルバー健康大学が人生100年時代を健やかに過ごすための一助になればとお話しされました。



大平理事



橋本先生

引き続き、橋本衛氏（近畿大学医学部精神神経科学教室主任教授）より、「認知症って治るの？ 予防できるの？」と題して講演がありました。認知症は、①治すことが可能な認知症（正常圧水頭症など）②治すことはできないが予防が可能な認知症（血管性認知症）③根治が望めない認知症（アルツハイマー病などの神経変性疾患）——に分類されると述べ、それぞれを詳説されました。

根治が望めない認知症では、アルツハイマー病の治療薬として、9月に承認されたレカネマブ（疾患修飾薬）に言及。「根治への入り口がわずかに見えてきた」と述べられた一方で、レカネマブは進行速度を遅くするが進行を止めることはできないことや、高い確率で血管浮腫・出血などの副作用を認めることなどの課題を指摘されました。

最後に、認知症の予防のためには日常の健康管理、適度な運動、規則正しい生活、精神・社会活動の維持を心掛けることが大切と解説されました。また、認知症になった時に「どのように生きたいか」について、元気なうちから考えておくことも必要だと呼びかけました。

大阪府医師会では、来年度もシルバー健康大学を実施予定です。大阪府医師会は、府民の皆様が安心して住み慣れた地域で過ごせるよう、行政や関係機関とともに地域医療活動に取り組んでまいりますので、ご支援・ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

